

**平成 29 年度
地域まちづくり活動助成金
活動成果概要**

平成 30 年 3 月
東大阪市 協働のまちづくり部
市民協働室

目次

『地域まちづくり活動助成金』の概要	1
選考方法・審査会委員	1
各交付事業の成果一覧	2-3
活動成果概要	4-59

『地域まちづくり活動助成金』の概要

地域まちづくり活動助成金制度は、東大阪市の地域資源の活用や地域課題の解決に向けたまちづくり活動の活性化を図り、わがまちとして愛着と誇りの持てる市民主体の魅力ある地域づくりを目的としています。

ソフト事業	スタート支援部門	立ち上げて5年未満の団体が、活動基盤を整えたり、新たな事業を始めたりするのを支援する助成金。
	事業チャレンジ部門	団体が、将来に亘って自立・継続して活動するための事業への助成金。
ハード事業	まちづくりファンド調査研究部門	次年度、まちづくりファンド部門に申請するために、事前に必要な調査、研究等を行う事業への助成金。
	まちづくりファンド部門	市民によるまちづくり活動の活性化につながるハード整備事業への助成金。

○選考方法

スタート支援部門	書類と面接（10分程度）
それ以外の部門	書類と公開プレゼンテーション（20分程度のプレゼンテーション）

いずれも「東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会」において採択団体や助成金額などを審査します。

○審査基準

- ・事業の公益性 ・事業の実現性 ・事業の創意工夫・先駆性
- ・事業の発展性 ・組織の健全性 ・他団体、企業、行政機関などとの協働性

平成 29 年度東大阪市地域まちづくり活動助成金審査会委員

平成 29 年度の審査は、下記の審査委員により審査を行いました。

	氏 名	選 出 団 体 及 び 役 職
会長	吉田 忠彦	近畿大学経営学部教授
副会長	有田 典代	国際文化交流協会 事務局長
	田中 晃代	近畿大学総合社会学部准教授
	藤江 徹	あおぞら財団（公益財団法人公害地域再生センター）事務局長
	寺岡 丈夫	協働のまちづくり部 市民協働室長

各交付事業の成果一覧

	団体名	事業名	ページ 番号
1	「ひょうたん山夢街道まつり」 実行委員会	「ひょうたん山夢街道まつり」開催事業	4
2	工場を記録する会	東大阪工場ミュージアム構想の具体化 - デジタルからリアルへ-	6
3	子育て情報発信ぷらっと ホーム	まちカフェ「ぷらっとホーム」事業	8
4	東大阪 22 会	市庁舎 22 階を活用した東大阪市の文化歴史産業の魅力を たどる展示（芸能編）	10
5	ぼくらのひらおか まちあるき会	地域活性化に向けた枚岡地域の宝さがし活動事業	12
6	地域資源わくわくプロジェクト 実行委員会	地域資源わくわくプロジェクト	14
7	NPO サポート東大阪	つなげ隊 東大阪 NPO 活動の今、 これから「東大阪 NPO 活動 紹介冊子作成プロジェクト」	16
8	ColorfulKids こどもとはなそ！ こどもとつくる！	地域親子応援活動	18
9	「みんなでごはん」をつなぐ会	「みんなでごはん」を広げようプロジェクト	20
10	小阪わいわい協議会	「ママラボ 3 つの柱」推進事業	22
11	ささえ愛、わかば	高齢者ふれあいサロンと介護予防・健康増進栄養管理推進事業	24
12	東大阪まちづくり委員会	社会的孤立にある高齢者をささえる荒本・蛇草地域まちづくり事業	26
13	東大阪市「集いの場の会」	1.「集いの場」運営事業および 2.『集いの場』の集い 2017」開催事業	28
14	憩の集“やすらぎ”	高齢者の“やすらぎ”の場づくり事業	30
15	花園商店会	商店街活用型 健康づくり・介護予防等活動事業	32

	団体名	事業名	ページ 番号
16	梶無神社ふれあいやさい市 実行委員会	梶無神社ふれあいやさい市開催事業	34
17	K-mop	ふれあい早朝健康ダンス	36
18	あきばこ家	長屋を利用した交流拠点の創出	38
19	こども英語推進委員会	みんなで歌おう！ラグビーワールドカップテーマ曲 「World in Union」	40
20	小阪中校区まつり実行委員会	小阪中校区まつり	42
21	コミュニティカフェ・ひだまり	地域の居場所・集いの場づくりサミット in 東大阪 ～東大阪の居場所・集いのガイドブック作成事業～	44
22	ポイ捨てボクメツ作戦実行委員会	D 地域 ポイ捨てボクメツプロジェクト	46
23	東大阪フォレストクラブ	森林保全整備活動と森林整備体験講座	48
24	NPO 法人国際ボランティア 学生協会東大阪クラブ	空き家を活用した地域や学生が高齢者を支える見守り事業	50
25	日下山を市民の森にする会	「日下山」利活用促進整備事業	52
26	特定非営利活動法人 おまけ文化の会	宮本順三記念館・豆玩舎 ZUNZO 未来の夢と文化の駅事業	54

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「ひょうたん山夢街道まつり」開催事業		
団体名	「ひょうたん山夢街道まつり」実行委員会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	200,000 円

事業の目的・内容	目的	生駒山麓に位置する当地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力を広く発信し、興味と関心の輪を広げ、郷土への愛着と誇りを育む。また、地域の賑わいの創出、人々の交流の促進を図る。
	内容	この地域を南北に貫き、古来より、京の宮人や戦国武将が多数往来し、歴史に彩られた東高野街道を舞台に、市民参加による「時代行列パレード」をメインとしたイベントを開催し、地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力を広く発信する。

活動実績	<p>① 「ひょうたん山夢街道まつり通信」の発刊・情報発信 (第3号：4月15日、第4号：10月15日 B地域自治会配布)</p> <p>② 「市民ふれあい祭り」パレードに参加、取り組みアピール(5月14日)</p> <p>③ 「ひょうたん山夢街道歴史トーク」 (8月27日、四条リージョンセンターにて開催) 【第一部】民俗芸能「河内にわか」公演 【第二部】歴史トーク「東高野街道が綾なすわがまちの宝物」 (入場者) 約100人</p> <p>④ 第3回「ひょうたん山夢街道まつり」(11月5日開催) 旭町子育て支援センターから四条リージョンセンターまでの間約1Kmを東高野街道の歴史を振り返り、参加者手作りの装束で武将や宮人に扮し、「時代行列パレード」を実施。併せて、駅前広場で、地元グループの参加による大道芸や河内音頭などのイベントを開催。 (パレード・イベント参加者 約130人)</p>
------	---

目 標	<申請時> 時代行列パレード、イベント 参加者：100名	<事業実施後> 大商大ボランティアサークル、経法大ゼミ生の若い人達の参加協力が得られた。:130名
事業の成果・効果	<p>歴史シンポジウムの開催並びに時代行列パレード等市民参加によるイベントの開催により、当地域の豊かな歴史・文化資源の存在と魅力の再発見、興味と関心の輪を広げることができた。</p> <p>また、地元自治会をはじめ商店街の支援や高校生、大学生など若い人達の参画により、地域の賑わいづくり、コミュニティの活性化にも寄与できた。</p>	
今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した取組みとするために、引き続き地元関係団体や商店街への働きかけを行うとともに、取組みに賛同、協力いただける人材の発掘に努める。また、イベント開催に向けては、高校・大学との連携を更に密にし、若い人達の参画の輪を広げていく。 ・子ども達が興味を引き、参加したくなる取組みを検討していく。 	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	東大阪工場ミュージアム構想の具体化ーバーチャルからリアルへー		
団体名	工場を記録する会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	184,000 円

事業の目的・内容	目的	当該事業構想はモノづくりのまち東大阪を歴史的に俯瞰して(1)中小企業・地域経済の情報発信に続けて(2)ものづくり教育(3)ものづくり観光(4)中小企業研究(5)産官学連携・産産連携の各拠点づくりを目指して調査研究を進める。なお(2)(3)に関連する具体的な地域文化活動を続けている諸団体との連携は次年度以降に行う。
	内容	ホームページ「東大阪工場ミュージアム」に新規内容を盛り込み、展示会「東大阪地域経済の歴史」を開催する。事業名副題の「バーチャルからリアルへ」は、常設展示場を開設するためのPR活動・他地域でのミュージアム調査で第一歩を踏み出す。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ① ホームページの新規アップ 3社、1企画 ② 東大阪地域経済の歴史展 10月3日～7日 大阪商業大学リアクト ③ 調査研究 全国地域ミュージアム活性化協議会 2月23日 松江市 ファクトリーアートミュージアム 3月11日 富山市 ④ PR活動 東大阪モノづくり体験塾(事務局会議2月7日) “あきばこ家”(見学2月13日) 高井田まちづくり協議会(役員会2月14日) 型ろう会(第49回例会2月15日) 高井田むつき会(年次総会2月16日) トライスペース東大阪(オープン祝賀会2月26日) ⑤ 東大阪市長寿企業紹介誌への執筆協力 ⑥ 大阪商業大学フィールドワークゼミナール学生との連携 8月,1月 ⑦ 東大阪市長寿企業紹介誌への執筆協力 6月,11月,1～2月 ⑧ 東大阪市教員・職員2年目研修(高井田フィールドワーク)への協力 7月 11月
------	--

目 標	<p><申請時></p> <p>②歴史展 200人 ⑤年度当初案では学習会 30人 ⑥大商大学生 未定</p>	<p><事業実施後></p> <p>②204人 ⑤キャビネット常設展示の協議に変更 ⑥インターンシップ・発表会 18人</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>(1)ホームページ記事の取材（株式会社フセラシ、株式会社カツロン、野田金属工業株式会社）と長寿企業対談の企画では、前年度にはなかったモノづくり教育、モノづくり観光への接続と全市的な視野の広がりを実現した。</p> <p>(2)歴史展において「東大阪工場ミュージアム構想」と「常設展示場開設の目標」を明示した結果、具体的な展示場所の模索を始めた。</p> <p>(3)ミュージアム常設場PR活動を始めると、5年前からの記録と発信の活動スタイルから、市民および市外からの来訪者にモノづくりのまち東大阪市の魅力と誇りをどのように訴えるかを発想するようになった。</p> <p>(4)先進地域への調査研究によりミュージアムの設立と維持運営にどれだけの労力を要するかを具体的に把握できた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>東大阪市においては10年以上の活動を続けている下記の5団体がある。</p> <p>A. 小学校への出前授業… NPO 法人 東大阪地域活性化支援機構 B. 修学旅行生の工場見学…大阪モノづくり観光推進協会 C. 地域産業の振興…東大阪ブランド推進機構 D. 技術技能の継承…NPO 法人 地域基盤技術継承プラザ E. 住工共生に関する取り組み…高井田まちづくり協議会</p> <p>ミュージアム構想5つのコンセプト(2)(3)を具体化するための連携を来年度行う。成果・効果に書いた「市民が抱く誇り、外来者が感じる魅力」を常設展示のストーリーによって実現したい。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。

歴史展ちらし

野田金属工業株式会社(弊会ホームページ記事)



住工共生
モニタメント



修学旅行生の
工場見学

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	まちカフェ「ぷらっとホーム」事業		
団体名	子育て情報発信 ぷらっとホーム		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	150,000 円

事業の目的・内容	目的	子育ての孤立化を防ぎたい。「ここに来れば誰かとつながる」をモットーに「誰もが気軽に集える居場所」「誰もが気軽に相談できる場づくり」をめざす。 まちカフェや、「孤食」「食育」もテーマにした「子ども食堂」の運営を通し、地域での「顔の見える関係づくり」、社会的孤立の解消の一助となる。
	内容	リージョンセンターや地域での行事の際、子育てに役立つ情報をポスターやチラシで発信し、親子で参加できる企画を催し、交流する。また定期的な街角カフェや子ども食堂を開催し、誰もが気軽に立ち寄れる居場所の運営を行う。

活動実績	<p><中鴻池リージョンセンターでのコミュニティカフェ> 7月2日(日) すずかぜコンサートでのカフェ運営(120杯) 10月8日(日) 鴻池ジャズストリートでのカフェ運営(140杯) 2月11日(日) グリーンパルフェスタでのカフェ運営(175杯)</p> <p><地域行事での出店> 11月19日(日) 盾津中学校での盾津ふれあいフェスティバルへの出店(子ども食堂的取り組み)→シチューの提供(155杯分) 11月26日(日) 鴻池ファミリーフェスティバル</p> <p><唐津邸での定例まちカフェ> 毎月第4水曜の午前9時半～12時に開催</p> <p><唐津邸での子ども食堂> 8月26日(土)約60名、1月21日(日) 餅つき大会 約80名、3月17日(土) ひな祭りカフェ</p> <p>・グリーンパルへの記事掲載「子育てのヒント」年3回</p>

目 標	<申請時> まちカフェへの来場目標 1200人 地域でのまちカフェの定例化 子ども食堂の開催（年4回以上）	<事業実施後> まちカフェ・子ども食堂への総来場者 数 約800名 まちカフェ 毎月1回定例開催 子ども食堂 年3回開催
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>リージョンセンターや地域行事での取り組みを通して、団体とその活動の意義についてなど確実に地域に浸透してきた。</p> <p>子ども食堂は開催すると盛況で、地域に確実にニーズはあることを実感できた。また、生活困窮の家庭、親子関係が気になる家庭の子らも地域の子どもらに混じって参加していて、地域全体で子どもを見守る体制づくりに一役も二役も役立っている。</p> <p>定例のまちカフェは、平日開催ということもあり、小・中学生の参加は難しかったが、保育所待機中の親子が来られたり、地域の高齢者が立ち寄られ、一緒に絵手紙作成したり、と世代間交流につながる兆しも見えてきた。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>食材提供はふーどばんく大阪やJAグリーン大阪からもらっているが、子ども食堂の定期開催と運営へのサポートを通じて、人や企業との交流も活性化するような仕掛けを考えていく。</p> <p>また、他の子ども食堂や集いの場を運営されている人々とも積極的に意見交換していく。</p> <p>地域の広報誌や Facebook など SNS での情報提供・情報発信も精力的にすすめていく。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	市庁舎 22 階を活用した東大阪市の文化歴史産業の魅力をたどる展示		
団体名	東大阪 2 2 会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	80,000 円

事業の目的・内容	目的	市民の手で 2 2 階の活性化ができないかと 26 年 5 月から話し合っていた。27 年 5 月にレストランがオープンすると同時に市民の力で 2 2 階の活性化を図り、この街の魅力を発掘し、子供たちに、誇れる街であることを伝えたいと強く願っていることがきっかけとなっている。
	内容	東大阪の歴史、文化の匂いを今回は芸人芸能文化を発掘し紹介する展示を行う。後半の展示会では、東大阪市内にある 1 6 の式内社（延喜式神名帳に記載）の歴史ある神社について由緒などを展示し、悠久の歴史を学ぶ。同時に、2 2 階のレストランにて展示内容と関連する講和会を催し展示だけでなく直接関係する方の生の声で解説して頂き 2 2 階のにぎわいを創出する活動を行う。

活動実績	<p>10 月の展示、「東大阪ゆかりの芸能の人展」は、ちょうど NHK の朝の連続テレビ小説「わろてんか」の題材にもなった近代の大阪の芸能の草創期にいた、東大阪に関わりのあった芸能人たちも紹介した。東大阪というのは、上方文化のお笑いの部門に関わる人たちが古くから住み、多様な文化、多様な住民がいたことを紹介した。また、現在の若手の芸能人も多く輩出している内容となり、じっくりと展示を読む人が多かった。</p> <p>展示初日には、展示内容と人物について、会議室を借りて解説会を開催。これは、(一社) ツーリズムの後援と、市政 5 0 周年記念コンサートで故河島英五ゆかりの人のコンサートが前日に開催されたために、市側との協働がなされた。また、本庁舎を探検するイベントとも合致して、最終ゴール地点として 22 階に上がって来られた市民の訪問もあった。22 階で展示していることが、市のイベントとのコラボにもなりタイミングがよかった。</p> <p>22 階の活性化をめざす我々には、ツーリズムや企画室などの他との協働は相乗効果があった。3 月の展示内容も記紀に載っている神話や古い歴史に関わる話であり市民にもっと知って頂きたいと思う。</p>
------	--

目標	<申請時> 毎回の来場者は500人を目標× 2回 1000人	<事業実施後> 10月芸能の人展 2週間で450人 解説イベント参加10名、 3月9日～19日10日間300人予定
事業の成果・効果	10月芸能の人展 10/28～11/9 2週間で来場約450名 解説イベント参加10名、(一社)ツーリズム振興機構の後援を取り、河島英五をしのぶ東大阪アリーナでのコンサート入口でチラシを配布した。今までにない配布方法で進展があった。ここでのチラシを見て来られた来場者がかなりいた。NHKのドラマの影響もあり、テレビで見る芸能人が東大阪とゆかりのある人が多いことを市民が知って、大変興味深くパネルを見られていた。この展示の後日、東大阪市民議会、総務委員会で市民ギャラリーの活性化について質疑が行われた。まだまだ利用が少ないことを担当課がどう見ているか。活性化を願う市民との協働をどう図るかということ委員会でも注視されたことは、3年目の活動の成果かと思う。 3月9～19日展示予定は、記紀に載る話とも関係し歴史深いことが分かる。	
今後の事業展開	東大阪の歴史や古地図など、市民には知られていないことを取り上げてきた展示内容の3年間であったが、現在の市民が個人で未発表の絵画や盆栽などを市民ギャラリーを使って展示するという案を若い人から頂いた。 今後は、だれに来てもらいたいのか、年齢層や趣味なども考慮した展示を他のグループの人たちと協働して考えていきたい。いつも他のグループとの協働を思い描くが、普段の出会いが少ないので実現には結びつかない。情報の発信とメンバーの広がりを今後の課題にしていこうと思う。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域活性化に向けた枚岡の宝さがし活動事業		
団体名	ぼくらのひらおか まちあるき会		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	50,000 円

事業の目的・内容	目的	東大阪市東部にある、枚岡公園と瓢箪山商店街に挟まれた枚岡地域は、やまとまちそれぞれに魅力がありながらも、互いの距離感が遠く、分断されているように感じられます。そのような課題を持つ枚岡地域で、やまとまちをつなげ、町全体を盛り上げていくために2016年10月より「まちあるき」をしながら、地域の持つ魅力を調べている。将来的に様々な魅力を載せ、まちあるきコースを記した「宝の地図」を制作していくことを目的としている。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークをしながら「地域の魅力」を収集、分析する。 ・住民の方へのヒアリング（聞き込み）調査をする。 ・大阪産業大学 デザイン工学部 建築・環境デザイン学科の川口研究室と協働でそれらを分類し、議論することで、「枚岡らしさ」を見出し、魅力をマッピング、地域のイベントで展示する。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・6月～7月 大阪産業大学の学生と協働でフィールドワークを実施、集めた魅力を分析し、“古きよきものを継承していく、『どこにでもあるどこにもないまち』”という「枚岡らしさ」を見出した。 ・8月 見つけた魅力を深めるためのヒアリングをしながら、マッピングをし、展示会及び「意見交換ワークショップ」の準備を行った。 ・9月 Cafe&gallery K2の一面をお借りし、活動を通じて集めた地域の魅力を載せたマップの展示会を行い（9/1～9/6）、「意見交換ワークショップ」を実施した。（9/6）ワークショップには東大阪経済新聞、J：COMに取材いただき、記事及びニュースになる。 ・11月～12月 「瓢箪山音楽祭」（11/12）、「第14回 川中邸 美杜里乃屋愉会」（12/2）、で同マップの展示会を行い地域の方に書き込みをいただいた。 二つのイベントと、枚岡神社での「お笑い神事」（12/24）で9月までの活動の内容をまとめた「ニュースレター01」の配布を行った ・2月 1年間の活動をまとめた「ニュースレター02」を作成。配布予定である。
------	---

目標	<申請時> フィールドワークを通じて枚岡地域の魅力を300件見つけ、それをカテゴリ分けする。	<事業実施後> 1年の活動で、学生の集めた魅力が230件、住民の方に教わった魅力が61件集まり、計291件の魅力を集めることが出来た。
事業の成果・効果	大阪産業大学の学生と協働し、魅力を収集することで、「外部の視点」でひらおか地域の魅力を探ることができ、みどりあふれる庭園や、歴史のある枚岡神社、子どもたちが遊びまわるような広場などがあり、文化的な魅力が多かった。また、9月～11月のイベントで展示を行い、地域の方に書き込みをいただいた「内部の視点」を整理したところ、わき水のある場所や、地域の人を通る電車横の近道や、歴史の深い古墳などがあり、生活に根ざした魅力が多かった。 これらの魅力の展示では、市民の方々が、ひらおか地域の魅力について話しあっている姿も見られ、自分たちの活動で市民の輪が広がる可能性を見ることができ、それらを記した「宝の地図」を作成することで、地域内外の人達が自分たちの住む場所に興味をもち、深めていくきっかけになっていくと感じられた。	
今後の事業展開	ひらおか地域は魅力にあふれている。そのなかで私たちの知らない魅力を見つけていくために Facebook などの SNS を活用し、来年度の「宝の地図」の作成のために、魅力を更に深めていく。 また、活動の中で、枚岡公園地域連携協議会のオブザーバーに推薦され、今後の活動の連携を図って行く。 今年度は大阪産業大学の学生が活動メンバーに加わってくれたが、来年度も積極的に行っていく。	



各イベントでのマップ展示・ニュースレター配布の様子



NEWS LETTER 01

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域資源わくわくプロジェクト		
団体名	地域資源わくわくプロジェクト実行委員会		
助成区分	スタート支援部門助成金	助成金額	109,000 円

事業の目的・内容	目的	時代とともに失われがちな地域(郷土)の興味深い場所、景観、伝承を、より多くの人に楽しく伝え、大人から子供へ世代を超えて伝えてもらうきっかけ作りをしたい。 一歩踏み込んで、地域の特産、伝承や食文化を組み合わせで紹介できるコースを開発し、楽しく、わかりやすい小旅行のような参加体験を通じ、地域への愛着を深めて頂く為の基盤となる活動を目指してプロジェクトを立ち上げました。
	内容	身近な地域に点在する興味深い場所、景観、伝承、食文化などを組合せた①創作コースを開発する。②従来のまち歩きと異なった小旅行型の「参加体験」となる様、実施企画書を作成する。③企画書の実施可否を検証のため、試験試行を経て本番イベント実施書を作成する。④実施に向けた諸団体へ協賛依頼する。⑤本番実施と結果の評価、反省を行い、次回へ継承・改善を行います。

活動実績	<p>1、平成29年4月～6月</p> <p>(1)プロジェクト推進会議(原則:1回/月開催)</p> <p>①前回開催イベントの評価と反省についてメンバーにて再確認する。 ②今回開催するコース候補の提案と、それらの詳細について調査・検証を実施する。 ③コース候補をプロジェクトメンバーにて試験試行し、問題点を抽出する。 ④コース問題点を解消する改善、計画の一部修正、伝承の再検証等を実施する。 ⑤改訂版イベント実施計画書に基づく再試験試行を実施する。 ⑥本番イベント実施決定計画書を作成する。</p> <p>2、平成29年7月～10月</p> <p>(1)本番イベントの実施に向けた準備会合(必要に応じて随時開催)</p> <p>①本番イベント実施計画書に基づき予算書を作成する。 ②イベント参加募集の開始(チラシ作成)、近隣への配布及び諸団体へのPR ③本番当日の準備品や運営等の実施要領を確認する。 ④準備品の購入及び下拵えをメンバーにて実施する。(会合を数回開催) ⑤参加者募集の広報成果を確認する。</p> <p>3、平成29年11月11日(土曜日)</p> <p>(1)本番イベント実施 (2)イベント終了時に参加者全員にアンケートを実施する。 (3)イベント終了後の11月29日にメンバーにて本イベントに対する評価と反省を実施する。</p>
------	---

目 標	<申請時> 1、体験型地域資源探索ファミリーウォーキングの実施。 2、次年度用イベントのルート開発と試行。	<事業実施後> 1、H29-11/11 タイムスリップ体験ウォークを実施・好評。 2、次回開催要望多し、第一回実施開発ルートを関係団体も参加頂き、5月実施予定。
事業 の 成 果 ・ 効 果	1、東大阪市地域まちづくり活動助成金を頂き、第3回わがまちファミリーウォーキングを開催しました。テーマは、むかしを歩こう！「タイムスリップ体験ウォーク」です。 2、参加者は、子ども5名と大人が9名で合計14名でした。(他、スタッフ22名) 3、今回は、①歴史史跡:旧生駒トンネル・大龍禅寺へ、続いて②日下山柴刈りと石臼引き体験の後、③ファミリーウォーキング ④上石切自治会館にて火おこし体験と手作り竈での炊飯にトライして、⑤地域での伝統食・二階弁当を食しました。参加者大好評のもと無事終了。 4、イベント実施を通して、新しい史跡の発見と郷土愛の醸成に繋がりました。 5、本イベントに近隣7団体から協力頂き、地域としての絆を強く出来ました。 6、次イベント開催に向けた会合開催(1回/月)と12月に試験試行を実施しました。	
今 後 の 事 業 展 開	1、第3回イベントの開催で参加者より早期、次開催の要望が多数ありました。 2、よって、コース設計開発済みの第一回目に実施した『辻子谷の復元水車と石仏』伝統料理を食するクエスト・リターンズにて本年度5月中旬に開催します。 3、H30年度・新規にコース開発を目指して第5回わがまちファミリーウォーキング実施を予定。 4、今は、第4回目の5月イベント実施に向けた準備にパワーを集中、進行中です。 5、予定としては、第5回イベントを10月頃に実施したいと思っています。 6、更に、プロジェクトメンバーの増員に向けて募集活動を進めてまいります。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

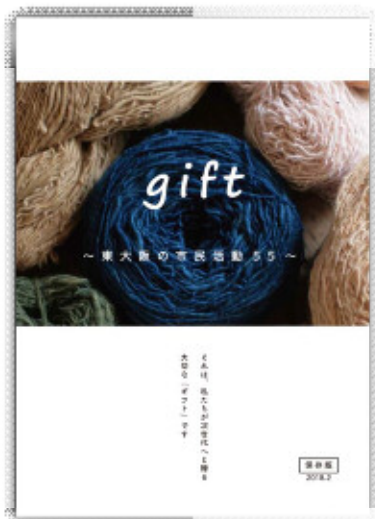
事業名	つなげ隊 東大阪 NPO 活動の今、これから 「東大阪 NPO 活動 紹介冊子作成プロジェクト」		
団体名	NPOサポート東大阪		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	630,000 円

事業の目的・内容	目的	東大阪市内では多くのNPO活動があり、地域に蓄積されているが、なかなか自団体以外のことは知らない。また、企業がNPOについての情報や知識がなく、どのようにして市内での社会貢献活動に関わっていけばよいのか分からない。これらを繋ぐツールとして、紙媒体の冊子を作り、本市の非営利活動、市民活動を広く紹介し、新たな出会いの機会を作ることが目的。
	内容	①NPO活動を紹介する冊子を作成すること。一目で見ても解るツールとなるものを作成し、だれでもが、いつでも、見れるような冊子を誕生させること。 ②各団体は、それぞれの専門性や強みを自己PRし、利用者や関わる担い手を増やすことのツールとしても利用し易くなるように活用する。作成後は、交流の場、PRの場を設ける。

活動実績	実施期間又は実施日時、実施場所、事業に関わった人数など
	<p>【実施期間】 2017年6月～2018年3月</p> <ul style="list-style-type: none"> 掲載団体とのコンタクト（訪問・取材・ヒアリング） 企業等への趣旨説明・協賛依頼 冊子紙面の作成（構成・デザイン・写真・原稿作成） 各団体への配布・各機関への配置（計600冊） 交流会の開催（2018年3月19日） <p>掲載団体数 55団体（うち特集団体6団体）、協賛企業数 4社 交流会参加人数 30人</p> <p>【活動場所】各団体の活動の現場へ取材、コミュニティカフェひだまり、イコーラム会議室他での作業と会議</p> <p>【配布場所】NPO団体、市内の小・中学校、高等学校、大学、行政（経済部、企画室、教育委員会、協働のまちづくり部他、行政サービスセンター、地域包括支援センター、ボランティア協議会、社会福祉協議会等。</p>

目 標	<申請時> ①掲載枠 50 がすぐに埋まる。 ②要望される冊子を作る(300 冊) ③協働する実例が増えること。 目 標とする協働事案数 5 件	<事業実施後> ①掲載団体 55 ②発行後は要望が多い。 600 冊発行 ③異業種交流会には企業側の参加予定 あり。今後定期的な情報交換を予定。
事 業 の 成 果 ・ 効 果	中間支援組織として 「団体の活動の現場を知る事」「団体の生の声（目的や課題）を聞くこと」 を取材を通して心掛けた。主な成果として ・地域協働の推進のためのツールを作成し提供することができた（ツール作 り）。尚、当団体のホームページにも冊子をPDFで掲載している。 ・各団体が互いの強みを知り協働のきっかけをつくることができた（場づく り） ・中間支援組織としての組織基盤を強化することができた（中間支援機能の 強化）	
今 後 の 事 業 展 開	市内には、活動の予算規模は小さいながらも、地域での成果を着実に積み上 げている活動が多くあった。その小さな活動をつなぎ合わせて、活動団体の 互いの強みを活かし、弱みを補いながら、社会に対してより大きなインパ クトを与えるためのネットワークづくりやプラットフォームづくりを目指し てゆく。東大阪は福祉から産業まで様々な分野の非営利活動が存在してい る。分野の違いやセクターの違いを超えて広域的で未来指向の協働を推進し てゆく。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	地域親子応援活動		
団体名	ColorfulKids こどもとはなそ！こどもとつくる！		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	100,000 円

事業の目的・内容	目的	英語やアート体験を「出来るだけ安く」をモットーに、運営3人が主体となってレッスンを行っています。また、外部講師をお招きし質の高い良い体験の機会と、親子の交流の場として提供しています。その他、保育英検資格を取得し再就職を考えている方に、受験指導も行っています。このように地域の方の自立支援や地域全体でこどもを育てる環境を作ることを目的としています。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・月3～4回の英語レッスン ・月1回のアート体験 ・月3回のママ対象英語勉強会 ・必要に応じ子供対象英語勉強会 ・英語絵本の貸し出し ・ボランティアで英語絵本の読み聞かせ

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・レッスン回数 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>(通常)</td> <td>23回</td> </tr> <tr> <td>(外部講師・ネイティブ)</td> <td>6回</td> </tr> <tr> <td>(外部講師・日本人)</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>(アート)</td> <td>10回</td> </tr> </table> ・メンバー数 35組 ・運営人数 4人 ・図書館開設 <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>(購入冊数)</td> <td>70冊</td> </tr> <tr> <td>(貸出実績)</td> <td>130冊</td> </tr> </table> ・同時2レッスン進行 2017/10～ ・勉強会(ママ対象) <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>英検合格数</td> <td>4人(2月末時点1次試験合格者人数)</td> </tr> </table> ・勉強会(子供対象) <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>英検JR合格数</td> <td>4人</td> </tr> </table> ・初級絵画指導インストラクター資格取得 1人 ・地域手芸クラブのイベントに参加 アートレッスン宣伝活動 	(通常)	23回	(外部講師・ネイティブ)	6回	(外部講師・日本人)	11回	(アート)	10回	(購入冊数)	70冊	(貸出実績)	130冊	英検合格数	4人(2月末時点1次試験合格者人数)	英検JR合格数	4人
	(通常)	23回															
	(外部講師・ネイティブ)	6回															
	(外部講師・日本人)	11回															
	(アート)	10回															
	(購入冊数)	70冊															
	(貸出実績)	130冊															
	英検合格数	4人(2月末時点1次試験合格者人数)															
	英検JR合格数	4人															

目 標	<p>< 申請時 ></p> <ul style="list-style-type: none"> •参加人数 10 名増 •協力スタッフ 1 名増 •図書館開設 •同時 2 レッスン進行 	<p>< 事業実施後 ></p> <ul style="list-style-type: none"> •参加人数 20 組から 35 組 (15 組増) 増員目標達成 •協力スタッフ 1 名が加わり、同時 2 レッスン進行が可能となり目標達成 •図書館開設で目標達成
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<ul style="list-style-type: none"> • 低価格のレッスンで気軽に参加することができる、そのことが口コミで広がって新しいメンバーが増えました。 • 小学生もレッスンして欲しいというお声をたくさんいただいています。 • 運営による通常レッスンだけでなく、外部講師もお招きすることにより、子供たちに様々な英語に触れる機会を与えることができました。 • アートの時間を導入し、英語のレッスン以外の子供たちの新たな一面を発見することができました。 • 図書館を開設し安価で貸し出すことにより、親子で英語の絵本に興味を持ってもらえました。 • ColorfulKids の理念を理解し一緒に活動してくれる運営が 1 名増え、2 レッスン同時進行が可能になりました。 • ママ自身が英語に興味を持ち、共通の目標をもつ仲間と勉強会を重ねて英検に合格することができました。 • 子供のチャレンジとして英検 JR 合格を掲げ、数名が合格しステップアップのための意欲を高めることができました。 	
今 後 の 事 業 展 開	<ul style="list-style-type: none"> • 以前からご要望いただいていた小学生レッスン (小学生 1 年～ 3 年まで) を 2018 年 4 月からオープンする予定です。新設する事により年齢に応じたレッスンを提供できるようになります。 • 「つどいの広場すまいる」さんから、ボランティアで英語絵本の読み聞かせに来てくれないかとの打診を受けており、実現に向けて準備したいと考えております。 • 小学生を対象のアートクラス (英語とは別クラス) を開催する予定です。 • 英語絵本貸し出しが好評なので、今後も著書をそろえていきたいです。 <p>また、不定期ではありますが、絵本の読み聞かせを今後も継続していこうと考えております。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 英語個別指導の要望が多いのですが、人手不足により受け入れがたい状況になっています。ママ対象の勉強会を充実させ、英語指導が可能なる人を増やせればと思います。(目標 1-2 名) 	

* 活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「みんなでごはん」を広げようプロジェクト		
団体名	「みんなでごはん」をつなぐ会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	138,000円

事業の目的・内容	目的	「食」を通じて。「地域の子どもたちを地域で見守り育てる」をコンセプトに去年から始めた「子ども食堂」を継続しつつ、「子ども食堂」を拠点につなごうとした地域の協力者及び各団体とともに、今後の「子ども食堂」の自立や発展について可能性を見出していくこと。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月の「子ども食堂」の開催 ●子どもの居場所づくり関係者交流会 ●他団体との関係性づくり

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●毎月第3土曜日「子ども食堂」の開店 ●大阪ガスCSR活動の連携 <ul style="list-style-type: none"> ①火おこし体験 ②夏野菜のプランター栽培 ●「子どもの居場所」を考えようフォーラム開催 <ul style="list-style-type: none"> ①山科醍醐こどものひろば 理事 村井琢哉氏講演 ②関係者交流会：テーマ「私たちの街の子どもの居場所」 ●大阪商業大学 宍戸ゼミナールとの連携 <ul style="list-style-type: none"> ①上記フォーラム開催 ②夏休み1日オープンデー ●各団体・協力者・関心のある方々の見学受け入れ ●東大阪市小中学校事務職員研究大会での講演 ●大阪府介護人材育成確保支援事業でのセミナーにパネリスト参加 ●「子ども食堂サミット in 大阪」参加
------	--

目 標	<p><申請時></p> <p>①継続させること ②有意義な情報交換・関係性を築くこと ③地域に定着させること。</p>	<p><事業実施後></p> <p>①継続できた。 ②交流会開催。 ③活動から宣伝は難しいが、今後も継続していく。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>大阪ガス様よりCSRのお話を頂き、プランター栽培をすることで、子どもたちに野菜の育つ過程を見せてあげられた。</p> <p>フォーラム開催については、「子どもの居場所づくり」として全国的に活動されている村井琢哉様をお招きし、大変貴重なお話を伺え、また参加者からも好評を得ることができた。</p> <p>宍戸ゼミナールの学生さんたちの参加により、夏休み1日オープンデーでは、子どもたちがより親近感をもってお兄さんたちと交流できた。</p> <p>まだまだ、「子ども食堂をはじめたい」という市民の方々は多く、見学の依頼も多々あります。できる限りの情報提供と支援のもと、今年度開催された「子ども食堂」もありました。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>今後も毎月の「子ども食堂」開店の継続を第一目標として、自立できるよう寄付の依頼などを積極的に行いたいと思います。</p> <p>また市内での「子ども食堂」が2年前に比べて増えていることから、行政との連携を試み、行政と民間の良い関係性が構築できるよう努力したいと思います。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	「ママラボ3つの柱」推進事業		
団体名	小阪わいわい協議会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	350,000円

事業の目的・内容	目的	これまでのママラボでの活動に加え「キッズスペース事業」「ママサークル事業」「ビジネス連携事業」という3つの事業を新たに設け、それらを発展させることでママラボの収益基盤を強固にする。またママさんや地域の方々にとって魅力的な活動を通じて、街のイメージアップや地域経済の発展にも寄与する。
	内容	商店街での買い回り促進を促す「キッズスペース事業」、ママさんの“実現したい夢”を応援する「ママサークル事業」、地域でビジネスをする企業とママ・ちびっこをつなげる「ビジネス連携事業」の3つを実施、発展させる。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・キッズスペース事業 開催回数 のべ40回 イベント参加人数 のべ53人 売上合計 ¥47,000
	<ul style="list-style-type: none"> ・ママサークル事業 会議・打ち合わせ 6回開催 イベント 5回開催 売上合計 ¥38,000
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス連携事業 会議 6回開催 イベント実施 2回 売上合計 ¥27,900

目 標	<申請時> 3つの事業で十分な収益を上げる。 街のイメージアップなど	<事業実施後> たくさんの賛同は得られたが、十分な 収益を上げるには至らず。ただし活動 自体の周知度アップには繋がられた
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ キッズスペース事業 有資格者の実施担当者を募ってはみたものの、なかなか任せられる方を見つけることができず協議会メンバーだけでの開催にとどまる。 ・ ママサークル事業 希望者を募り、ミーティングや事業計画などを練った上でイベント開催まで実現できた。開催回数は5回。 ・ ビジネス連携事業 地域の企業10社ほどで勉強会や企画会議を開催。各事業と地域のママさんなどを交えて今後も展開予定。 	
今 後 の 事 業 展 開	<p>ママサークル活動とビジネス連携事業に関しては、さらに規模の大きなものにしていけるように今後も継続して活動を行なっていく。特にママサークル事業は、メンバーをより多く集められるようにしていきたいと考える。</p> <p>キッズスペース事業に関しては、キッズスペースをお任せできる方を確保することが非常に困難であることが判明したので、そこをどのように解決していくかが大きな課題として残った。</p>	

* 活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	高齢者ふれあいサロンと介護予防・「健康増進栄養管理推進事業」		
団体名	ささえ愛、わかば		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	160,000円

事業の目的・内容	目的	高齢化率10ポイント、高齢者単身世帯が東大阪市より2倍を超えている。市営住宅(エレベーターなし)住居が大半で高齢者には階段の昇降が困難で家に閉じこもりがちでそのため、「孤立」や「つながりが欠如」している状況にある。さらに、聞き取り調査で明らかになった「住民の不安や悩み事」に丁寧に対応し相談体制を確立する。サロンに来ることにより不安や孤立・孤独の解消に繋げていく。地域や周辺の「たまれる場」、「居場所づくり」としての機能と役割を果たしていく。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者ふれあいサロン：近隣に居住している高齢者の「居場所づくり」 ○認知症サポーター養成講座：認知症に対するマイナスイメージの払拭や住民が抱えている不安や悩みに対応 ○介護予防推進事業：健康維持や増進のために体操や勉強会 ○食中毒予防と栄養管講座、感染症予防講座 ○災害時の安心・安全講座 ○クリスマス会、餅つきなど。上記事業を通して「地域のコミュニティ拠点」としての役割を担っている。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ○実施期間：毎月第1・3木曜日 ○実施場所：東大阪市長瀬人権文化センター料理室 ○関わった人：ボランティア3名 ○参加者：19回 631人 ○特殊詐欺に関する講座とDVD鑑賞 29年5/18 41名 ○介護予防推進事業 29年6/15 42名、 7/20 35名、 8/17 22名、 認知症予防体操 9/21 28名、 11/16 36名、 30年2/15 32名
	<ul style="list-style-type: none"> ○熱中症、食中毒予防講座 7/6 39名 ○感染症予防講座 10/5 38名 ○火災時の安心・安全講習 10/19 32名 ○認知症サポーター 12/7 33名 ○クリスマス会 12/21 32名 ○餅つきと還付金詐欺について 30年 1/18 38名 ○フリータイムサロン 計6回 188名

目 標	<p><申請時> 新規事業を実施しサロンの中身の充実や活性化を図り、多くの新規利用者の参加を目指した。</p>	<p><事業実施後> 新規の取り組みによりサロン活性化出来た。取り組みの中では日常生活に直結した勉強会やミニ講座を開催。以前より、講師などにも積極的に質問や自分の意見などが言えるような環境になっている。そのため、全体の雰囲気も大変にぎやかで元気のあるサロンになりつつある。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>○孤立・孤独、引きこもっている高齢者の「居場所」としてのコミュニティの場としてサロンが提供出来た。 ○認知症に関わったサポーター養成講座や予防体操の開催によって認知症に対してのマイナスイメージの払拭や理解が出来た。 ○介護予防推進事業により健康促進・管理の意識の向上が出来た。 ○感染症・食中毒予防や栄養講座によって様々な知識が得られ日常生活の参考にすることが出来た。 ○災害時の安心・安全講座と特殊詐欺については様々な事例などを紹介され危機管理の準備や心得を勉強することが出来た。 ○上記の取り組みとその他、様々なリクレーションを実施することによって参加者が共通認識を得る事が出来「ふれあい」「つながり」「ささえあい」が出来たことにより地域が活性化し、より元気になることが出来た。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>○現在はボランティアが提供するサービスを受けているが、次年度は本人が参加できるような取り組みを実施する。 ○参加者からの聞き取りや関係者会議を開催し、活動内容の工夫や点検を実施する。 ○発展性からも、自主財源の確保。新規参加者、開催日を増やし小学校区にも取り組みを拡げていきたい。 ○一人でも多く参加者出来るように、また、サロンの意義を理解を得るために広報・宣伝を強化していく。</p>	

* 活動内容がわかる写真を添付してください。



認知症予防体操



熱中症・食中毒予防講座



災害時の安心・安全講座



餅つきと、特殊詐欺講座

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	社会的孤立にある高齢者をささえる荒本・蛇草地域まちづくり事業		
団体名	東大阪まちづくり委員会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	80,000 円

事業の目的・内容	目的	当該地域は困窮度が高く、2人に1人が高齢者。3人に1人は隣近所と希薄化し、孤独死で見つかるケースが多く、市内でも高い数字です。実際に、セルフネグレクトとなり、食生活の乱れ、ゴミ屋敷、認知症等の課題があるケースが発見されたが、「活動・交流場所」減少による、コミュニティの弱体化により、周囲に相談や頼りになる人がいないことが孤立状態に陥り、生活さえも満足に出来なくなっています。地域住民が「住んでよかった」といえる、暮らしやすいまちづくりを構築することが急務である。
	内容	孤立している高齢者等が「人」「地域」と繋がりを持ち、「健康で安心して生活や活動できる環境を作る」ことを目的に、生活課題の解決に向けてのケース会議、居場所や多世代交流、まちづくりフェスタ等を開催する

活動実績	<p>① まちづくりケース会議（荒本地区）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 荒本地区 6月21日(水)、7月19日(水)、11月9日(木) 参加者：20名、18名、11名 内 容：荒本在宅ケアサービス調整会議、ケース事例の報告と検討 ・ 蛇草地区 12月1日(金)、1月25日(木)、2月1日(木) 参加者：20名、11名、11名 内 容：蛇草地区 在宅ケアサービス調整会議、ケース事例の報告と検討 <p>② まちづくりフェスタの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日 時：11月3日(金)午前10時 参加者：2名(ボランティア) 内 容：いきいきながせまつり出店 <p>③ 孤立している高齢者の発見と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 7月5日(水)、28名参加(住民)、安心ドアセンサー住民説明会 ・ 7月31日(月)、9名参加(地元協力者)、安心ドアセンサー申込者宅設置作業 ・ 8月23日(水)、34名参加(住民)、安心ドアセンサー住民説明会 ・ 9月6日(月)、16名参加(地元協力者)、安心ドアセンサー申込者宅設置作業
------	---

目 標	<申請時> 孤独死撲滅と安心なまちづくり、ケース会議 適正な支援につなぐ、フェスタの開催 100人以上参加、ワークショップの開催 20人以上参加、ボランティア育成（傾聴、買い物等）、地域見守り券発行 孤立している高齢者20人以上支援	<事業実施後> 市民、機関等のネットワークを形成し、生活困窮、社会的孤立した地域住民を発見し、支援する仕組みづくりを構築することができた。
事業の成果・効果	① まちづくりケース会議： 地域に住む人々を支えるため、当該地域の支援機関、関係団体とケース会議を実施し、各課題に応じた支援だけに留まらず、世帯、環境、将来の予防支援等の包括的な支援と地域住民を支える発見・支援ネットワークを構築できた。 ② まちづくりフェスタ 地域住民の居場所や交流を図るために、各地域で1回開催した。地域住民同士と関係機関が交流し、夜店を出店。元気高齢者の出番づくりのきっかけとなった。 ③ 孤立している高齢者の発見と支援 各人権文化センターやNPO法人生きがい事業団かどやと連携し、孤立する高齢者を発見・支援する安心ドアセンサーを設置し、居場所や相談できる場を提供し、安心・安全な地域づくりを第1歩となった。	
今後の事業展開	今年度のまちづくり委員会を継続的、発展的にするために、官民の「顔の見える連携」を構築していく。孤独死、自殺などを未然に発見する町、小さな悩みを相談できる場所、人を育てることが急務です。 社会的孤立にある支援対象者は、自ら相談する力「受援力」を身につけられるよう、地域で見守り、福祉・医療機関、行政等と市民を繋ぐことが東大阪まちづくり委員会のミッションです。 来年度以降も、多くの関係機関の参画してもらい、高齢者の出番づくり等といった「支援される側が支援する側」になる「助け合いの町」になるよう事業を発展させていきます。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成 29 年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	1.「集いの場」運営事業 2.「『集いの場』の集い 2017」開催事業		
団体名	東大阪市「集いの場の会」		
助成区分	スタート支援 部門	助成金額	126,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>1.『集いの場』を新たに開設・運営するとともに、</p> <p>2.『集いの場』関係者らが一堂に会するイベントを開催、情報・意見交換を行うことで、</p> <p>利用者の増加や充実・発展、さらなる『集いの場』の創設に寄与する。</p>
	内容	<p>1. 7月から西石切町で「サロン喫茶去(きっさこ)」を開設・運営(毎月第2木曜日午前中、3月は第4木曜日午後に試行予定)</p> <p>2. 10/29に「『集いの場』の集い 2017」を開催(内容は、基調講演・実践報告・情報および意見交換会)</p>

活動実績	<p>H. 29/5/11・25、6/16、7/6「サロン」開催準備・うちあわせ [計 4 回]</p> <p style="padding-left: 20px;">開催場所：NPO 法人・事務所（西石切町 3-3-50）を借用</p> <p>H. 29/6/19「定例会」…イベント「『集いの場』の集い 2017」計画決定</p> <p>H. 29/7/13「サロン喫茶去」第 1 回目の開催</p> <p style="padding-left: 20px;">～以降、毎月 1 回（第 2 木曜日 10:00～12:00）開催～</p> <p>H. 29/8/21「定例会」…イベント準備の進捗状況の確認</p> <p>H. 29/10/1「イベント会場下見会」…当日の役割分担決定</p> <p>H. 29/10/16「定例会」…実践報告のリハーサルおよび当日の役割再確認</p> <p>H. 29/10/29(日) 14:00～16:00 イベント「『集いの場』の集い 2017」</p> <p style="padding-left: 20px;">開催場所：介護老人保健施設石きり(東石切町 1 丁目 7-27)</p> <p style="padding-left: 20px;">事業に関わった人数：会員・関係者…24 人、一般参加者 39 人、計 63 人</p> <p>H. 29/12/18「定例会」…イベント反省会</p> <p>H. 30/2/19「定例会」…「活動成果報告会」発表準備など</p> <p>H. 30/3/22「サロン喫茶去」月 2 回開催の試行【予定】</p>
-------------	--

目 標	<申請時> 1. 毎回 15～20 人程度の参加 2. 『集いの場』関係者および一般地域住民・80 人の参加(会員らを含む)	<事業実施後> 1. 毎回、会員・関係者を含む 30 人程度 2. 一般 39 人、会員・関係者 24 人、計 63 人の参加【当日は台風襲来あり】
事 業 の 成 果 ・ 効 果	「サロン」運営および「イベント」開催を通じて、会員・関係者だけでなく実際に『集いの場』運営に携わっておられる方・意欲をお持ちの方、地縁団体や行政の方、議員や一般地域住民など多くの皆さんが参加・参画くださり、活発な意見・情報交換を行うことができた。4 人の方が新たに入会、なかには「サロン」の担い手になってくださる方もうまれた。 また、「(仮称)石切地区サロン交流会」発足に協力、来年度以降の「会合」開催の目処が立ちつつある。なお、当会の当初の目的であった“マップ”作りについては、「2018 集いの場・居場所ガイドブック東大阪版」作成委員会に協力、近日中にガイドブック発行の見通しとなっている。	
今 後 の 事 業 展 開	2 か月に一度の「定例会」開催、ホームページ更新の継続とともに、来年度も「サロン」運営および「イベント」開催を行う（「サロン」は、可能であれば開催頻度を高めていきたい）。また、「(仮称)石切地区サロン交流会」に積極的に関与していくとともに、他地域の皆さんへの働きかけを継続する。さらに、必要に応じて、「集いの場・居場所ガイドブック東大阪版」作成委員会の活動への協力を続けていく。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



↑ 10/29 イベント『集いの場』の集い 2017

↑ 2/2 サロン喫茶去(きつきこ)の様子

情報・意見交換会の様子

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	高齢者の“やすらぎの場”づくり事業		
団体名	憩の集“やすらぎ”		
助成区分	スポーツ支援 部門	助成金額	80,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>地域の高齢化が進み当地区では28.6%の1,050人が高齢者人数となる。その為、高齢者に心の交流の場を提供</p> <p>① 高齢者の閉じこもり防止</p> <p>② 高齢者の生き甲斐づくり</p> <p>③ 高齢者と地域の絆づくり の三葉を図る</p>
	内容	<p>① 気軽に集える“茶飲み会”</p> <p>② 世帯間の交流</p> <p>③ 健康づくり講座</p> <p>④ 防犯 防災に関する講座</p>

活動実績	7月	そらめん流し大会	
	8月	防災講座	○中消防署
	9月	健康講座	○Y-シャルワカ-協会
	10月	認知症について	○社会福祉協議会
	11月	防犯講座	○河内警察署
	12月	クリスマス大会	○大阪商業大学 学生
	1月	健康講座 ロボットペーパーとゲーム	○意岐郡公民館より
	2月	脳トレ体操	○社会福祉協議会
	3月	地域の歴史について	○岡田学代議員

目標	<申請時>	<事業実施後>
	高齢者の健康と生活支援 づくり	参加者 延べ278人で 高齢者の生活支援づくりに貢献 できた。
事業の成果・効果	気楽に集まる“お喋りの場”を提供することで “心の交流の場”に化した。 中消防署の防災講座、河内警察署の防犯講座等により 危機管理意識が出来てきた。 次回を楽しみにされる。	
	今後の事業展開 事業発足の趣旨を参加者に理解して頂き、 参加者の意見を聞き取り参加者の自主的な活動の 場にしたい。	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	商店街活用型 健康づくり・介護予防等活動事業		
団体名	花園商店会		
助成区分	事業チャレンジ 部門	助成金額	200,000円

事業の目的・内容	目的	商店街（花園駅周辺）の空店舗や空きスペース（場や時間帯等）を活用して、地域の健康寿命増進や介護予防等の活動に寄与できないか。それぞれが所有するポテンシャルを引き出し、有効活用することで、コラボ型社会貢献活動を進めて行くのがねらい。社会的な大きなニーズ（テーマ）を商店街・専門多職種・民間・地域等の協働でまちづくりの視点で行う「社会的実践」である。
	内容	(株)ウエルシア薬局にある「ウエルカフェ」と花園商店街内にある「コミュニティカフェ・ひだまり」の2つの拠点を有効活用して相談活動やイベント等の事業を展開した。11/25 花園百円笑店街での共同イベント、大阪府介護人材育成事業（※別紙参照）との棲み分け、1/14 商店街による寄席「花園笑亭」の立上げなど、専門多職種、地域、3つの商店街組織の連携が図られた。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・7月23日（夏休み子ども企画）おもいで時計教室（by Fukurou LAB）同日イベント後に子育て支援等何でも相談会実施（1人の母親から） ・9月21日介護何でも相談（ウエルカフェ：2人） 電動カート試乗会は、11/25 百円笑店街イベントに振替え実施 ・10月19日在宅療養支援相談は、11/25 百円笑店街イベントで「医療・健康相談」に切り替え実施（喜場病院） ・11月16日介護何でも相談（ウエルカフェ：1人） ・12月14日相続・成年後見等相談は、H30.2.22 人材育成研修に振替え ・同日イベント「食について考える」は、H29.11.11 人材育成研修に ・H30年1月25日介護何でも相談（ひだまり：1人） ・1月14日寄席（花園笑亭と命名）35人 ・2月10日行政相談員による何でも相談（ひだまり）：3人 ・2月15日排泄関連のイベント：講師の都合（インフル）により中止 ・3月15日介護何でも相談 ・3月31日高齢者等にやさしい商店街・買物模擬訓練
------	---

<p>目標</p>	<p><申請時> 商店街にある多目的サロン(ウエルカフェ)やコミュニティカフェ・ひだまりを活用して、地域の健康寿命・介護予防活動に寄与。</p>	<p><事業実施後> 商店街が健康づくり・介護予防・まちづくり等にも取り組んでいる姿勢等を花園百円笑店街や定例介護相談等を通じてアピールできた。</p>
<p>事業の成果・効果</p>	<p>今回の事業採択後、大阪府の介護人材育成確保支援モデル事業の採択をH29.8.18に受託したことから、本事業の一部を大阪府のモデル事業(研修事業全21講座)に振り替えた。しかし、この府事業を並行して行うことにより、講師陣を中心に専門多職種のネットワーク形成が進んだ。商店街が、まちづくり等(今企画は健康づくり・介護予防活動)を行う場合は、空店舗やスペースのいわゆる「場」の活用だけでなく、何をどのように誰が行うのか、ソフト(コンテンツや人材)が必要である。そういう意味では、大阪府事業と本事業の棲み分けと連携が、上手くいき相乗効果を発揮したものと思われる。</p>	
<p>今後の展開</p>	<p>H25年から市のモデル事業として始まった「高齢者にやさしい商店街づくり事業」が、段々と広がりと深みを増し、花園エリアの介護福祉関係の事業所(13法人)のネットワークが形成され、大阪府事業によって専門多職種の連携も進んだ。今後は、こうした取組みを2019年ラグビーワールドカップ花園開催に向けたまちづくりの姿・ブランド化(HANAZONO)として意識して、更に事業展開を進めて行きたい。介護事業者(13社)による「KAIGO・ひと・夢プロジェクト」として既に活動が始まっている。</p>	



介護等何でも相談。健康・保健商品等も豊富



医療健康相談(11/25)



行政等の相談(2/3)



イベント「楽々買物支援」百円笑店街 11/25



イベント「寄席・花園笑亭」1/14

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	梶無神社ふれあいやさい市開催事業		
団体名	梶無神社ふれあいやさい市実行委員会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	200,000 円

事業の目的・内容	目的	地域の神社として、地域に開かれた農産物直売市(マルシェ)の開催による地産地消と食の安全の推進、そして独居老人を含む住民交流の場の提供と、地域の歴史・文化等のミニ講座を開催して地域住民の地域への愛着を深め、お互いに助け合う安全安心なまちづくりを進める。
	内容	地域に根差す神社として、地元の米・野菜・果物・花をはじめとして甘酒・ボン酢等の作り手が出店しての産直マルシェを定期開催し、生産者と消費者の交流、顔が見える食の安全への寄与、地元商店の活性化、住民同士の交流、地域の歴史・文化の共有・紹介など、マルシェを通じて周辺地域を盛り上げる。
活動実績	<p>実施日: 4月16日、5月21日、6月18日、7月16日、8月20日、10月15日、11月19日、12月17日、1月21日、2月18日、3月18日(予定)の11回実施 《9月17日は台風のため中止》</p> <p>出店数: 各回7店~12店</p> <p>ミニ歴史講座: 11回開催(3月18日開催予定含む)</p> <p>住民参加者数: 各回300名~500名</p> <p>広報: 地域支援包括センターなるかわ苑が、毎月縄手南校区自治会の各自治会掲示板にポスターを掲示し、広報紙を回覧。(やさい市に併せて境内で健康相談・介護相談をなるかわ苑が実施)</p> <p>当会も、縄手南校区の各自治会・子供会・老人会等の立看板約100基、及び個人宅・商店・銀行等にやさい市開催ポスターを毎月掲示し、またのぼりをたてた。</p>	

目 標	<申請時> ふれあいやさい市参加人数 4,800名	<事業実施後> ふれあいやさい市参加人数 4,500名(3月開催予定分は含まず)
事業の成果・効果	<p>緑豊かな神社境内において産直マルシェを毎月開催することにより、延4,500名の地域住民の参加があった。参加者は、新鮮で顔が見える地元の農産物を購入できることとなり、食に対する安心感が高まり、地産地消の促進が図れた。また生産者と消費者の交流も推し進めることができ、顔が見える食の安全への寄与ができた。</p> <p>ミニ歴史講座では市立郷土博物館との連携によって参加者に地域の歴史文化の発信ができ、地域への愛着が深まった。</p> <p>回を重ねるやさい市には、独居老人の参加も増え、多くの地域住民が会場で顔なじみとなり、会話が弾んだことによって住民同士のふれあい・連帯感が強まり、お互いに助け合う安全安心なまちづくりに寄与できた。</p>	
今後の事業展開	<p>ふれあいやさい市を今後も継続的に毎月開催することにより、食に対する安心感を推し進め、地産地消の促進を図りたい。ふれあいやさい市での自治会等の連携を強めて、より多くの住民の参加を図って、住民同士のふれあいを促進し、お互いに助け合うまちづくりを進めたい。引き続き市立郷土博物館との連携を図り、やさい市での“出前講座”によって、住民への地域の歴史文化の発信をより強く推し進めると共に、伝統芸能・南京玉すだれ、皿まわし、筑波山名物・ガマの油売り等の大道芸等の開催により、やさい市をより楽しめる場として盛り上げていきたい。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ふれあい早朝健康ダンス		
団体名	K-mop		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	150,000 円

事業の目的・内容	目的	子供達と高齢者がダンスを通じて交流できる場を作り、子供達の運動能力の発達・高齢者の健康増進を目的とする
	内容	春休み、夏休みの早朝に三ノ瀬公園、八戸ノ里公園、御厨公園にて無料の簡単な健康ダンスを実施します。 お子様から高齢者の方までどなたでもご参加いただけます。

活動実績	<p>2017年夏休みには最多で1日60名もの人に参加して頂き、目標にはあと1歩及ばなかったものの、参加者の方々から「楽しかった!」「またやりたい!」とのお声を頂きました。</p> <p>春休みにも実施予定にしております。</p>
------	---

目 標	<p><申請時></p> <p>1日70名以上の参加(3か所)</p>	<p><事業実施後></p> <p>1日60人</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>子ども達が夏休みや冬休みに早起きをし、長期休みであっても生活リズムを崩さずに日常生活を送れるということが、結果的に健康につながると思います。また、何よりも子供達自身が自主的に早起きをしたこと、楽しんでダンスをしているという事が成果として挙げられると思っています。</p> <p>御厨公園では特に高齢者の方に多く集まって頂き、子供達とのふれあいの場を作ることができました。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>ボランティアでふれあい早朝ダンスの実施者を募り、実施する公園を増やし、より多くの人たちの健康増進を図りたい。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	長屋を利用した交流拠点の創出		
団体名	あきばこ家		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	150,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	<p>菱屋西をはじめとする様々な地域では地域の世代間や団体間、地域の方たちと学生など地縁的なつながりが希薄になっていた。また、集う場所がなく、コミュニティが生まれやすい空間が少ない状態にあった。そこで近鉄長瀬駅の近くの長屋を改修しイベントスペースを設けた。</p> <p>今回の助成金はそのイベントスペースを活用し、イベントを開催することで、地域のつながりを作っていくことが目的である。</p>
	内容	<p>拠点となる長屋のイベントスペースで学生によって開催するイベントを季節ごとに行い、去年イベントスペースを貸し出した団体の方たちと一緒にイベントを開くことで地域の団体との交流を深める。そして、地域の団体や近畿大学の学生、住民の方たちの交流拠点事業を発展させる。</p>

活動 実績 績	<p>あきばこ家主催のイベントについて</p> <p>① 4月押花イベント 参加者</p> <p>葉作りを通じて子供達にもものづくりの楽しさを体験してもらうイベント</p> <p>② 5月親子ヨガイベント 参加者 9名</p> <p>長屋でヨガをしている方と連携したイベント</p> <p>③ 8月将棋イベント 参加者 10名</p> <p>藤井四段のニュースで今話題となっている将棋を子供向けに将棋の指し方を勉強しながら楽しむイベント。</p> <p>④ 11月オープンナガヤ大阪 参加者 21名</p> <p>第7回オープンナガヤ大阪にながせのながやも参加</p> <p>⑤ 12月クリスマスイベント 参加者 54名</p> <p>イベントスペースを借りて活動されている他の団体の方と協力して開催。</p> <p>⑥ 1月もちつきイベント 参加者 53名</p>
---------------	---

目 標	<p><申請時></p> <p>年イベント参加者 100 人 イベントスペース貸出月 120 時間</p>	<p><事業実施後></p> <p>年イベント参加者 147 人名 イベントスペース貸出 月 98 時間</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>長屋でのイベントは昨年が月一回の開催で年 124 名であるため、来場者は着実に増えている。イベントスペースの貸出は目標には届かなかったものの貸出時間は増加している。また、利用者との関係でも変化があった。あきばこ家とイベントスペース利用者の間にはつながりがあったが、イベントスペース利用者同士のつながりが希薄であった。そこで利用者の方々にも協力していただいてクリスマスイベントを開催し、そのイベント内で交流をしていただいた。イベントスペースはイベントを行うだけでなく、他の団体同士をつなぐ場としても機能するようになった。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>今後は、イベントスペース利用者の方々と共にイベントを開催していく。イベントを通じてあきばこ家とイベントスペース利用者のつながりだけでなく利用者同士で横のつながりの構築を進めていく。こうしたイベントは年に 3~4 回行う予定である。そしてイベントスペースを借りて利用する人を増やし、つながりの輪をより大きくしていく。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	みんなで歌おう！ラグビーワールドカップテーマ曲「World in Union」		
団体名	こども英語推進委員会		
助成区分	スタート 部門	助成金額	50,000 円

事業の目的・内容	目的	2019年に東大阪市花園ラグビー場で開催されるラグビーワールドカップテーマ曲の「World in Union」を300人で歌う。子どもから大人まで年齢性別得手不得手関係なく誰もが参加できる「歌と英語」を通じて地域を盛り上げる場をつくり、英語への意識を高めることが目的である。
	内容	地域コーラスグループ、一般、学生クラブ等に参加を呼びかけて参加者を募る。「地域から発祥する歌」としてゴスペル形式を採用し、年齢性別得手不得手関係なく、みんなが楽しく街を元気にしたいという思いを表現できるよう導く。2019年9月までに5回の本番を計画。3日間練習し4日目に本番とし、各回30-60名ほど参加者募る。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ・2017年11月より講師・スタッフとの打ち合わせ。今後のスケジュールについて日程確認と参加者へのケア、について。 ・2017年12月より参加者募集開始。ホームページ、SNS、チラシ（全リージョンセンター、東大阪市内の全中学校、高校へポスター配布、東大阪市内店舗でチラシの掲示 応募総数39名（0歳-80歳代） ・2018年から練習開始。1回目2/18（日）、2回目3/4（日）、3回目3/10（土）。 ・2018年3/17（土）ゆうゆうプラザ文化際にて本番
------	--

目 標	<p><申請時> ステージ発表参加者 300 名</p>	<p><事業実施後> 一回目の発表会参加者 35 名</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>多くの方は、地域を盛り上げたいけれど、自分にできることが無い、何をしていいか解らないと感じている。歌を通じて街に貢献できるなんて嬉しい！とたくさんの声がありました。</p> <p>また幼稚園児から 80 代のシニアまで応募があり、一緒に同じグループで練習することにより世代を超えたコミュニケーションづくりができました。</p> <p>一例として、5 歳の子どもが 80 歳の方に英語の発音を教えたりする場面があり、この場でしかできない場をつくれたと思います。また家族で「歌と英語」を学びたいと 0 歳、2 歳、5 歳、とご両親での参加もありました。</p> <p>「歌と英語」は「歌」＝自分ができること、「英語」＝自分が成長できる学び、であり、一人ひとりが達成感を得られ元気になれるものだ、と確信しました。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>2018 年 4 月より第二期として参加者 50 名募集。</p> <p>5/13 東大阪市民ふれあい祭り出演</p> <p>こさか JAZZ ストリート等に出演予定</p> <p>本番に合わせて、第三期、第四期、第五期と参加者募集</p> <p>2019 年ラグビーワールドカップに向けて全期合わせて 300 人募集予定。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

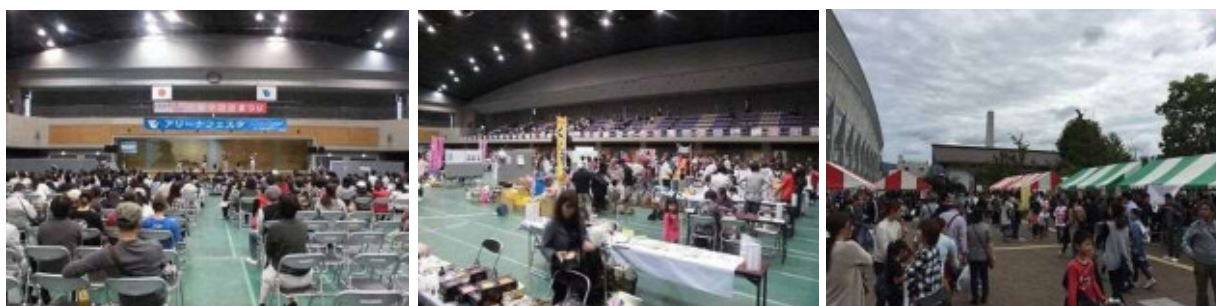
事業名	小阪中校区まつり		
団体名	小阪中校区まつり実行委員会		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	300,000 円

事業の目的・内容	目的	このまつりは、小阪中学校校区（小阪、八戸ノ里地区）の住民相互の出会いと楽しみを提供し、“地域愛”を育むことが最大の目的です。 今回も校区内にある施設である、東大阪アリーナを借用し、地元企業とコラボしながら楽しい一日を演出。
	内容	本まつりの前身は「教育協議会のおまつり」（発表会）のため、まつりは2部制とする。 <1部>校区の幼稚園児、小学生、中学生のダンス、斉唱、演奏、教職員によるステージ発表 <2部>ダンス甲子園、もぐもぐ横丁、フリーマーケット等

活動実績	<p>平成12年、実行委員会として発足。</p> <p>「小阪中校区まつり」の企画、運営は5回目を迎えます。実行委員は小阪、八戸ノ里地区にお住まいの37名ですが、その他にも近畿大学のボランティアスタッフや当日お手伝いのPTAスタッフ約40名、企業、行政のPRスタッフを含めると200名を超える大勢の人たちで運営しました。</p> <p>平成25年10月26日「第1回小阪中校区まつり」開催 開催場所：小阪中学校 来場者数 約4000名</p> <p>平成26年10月25日「第2回小阪中校区まつり」開催 開催場所：東大阪アリーナ 来場者数 約12000名</p> <p>平成27年9月23日「第3回小阪中校区まつり」開催 開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約15000名</p> <p>平成28年10月1日「第4回小阪中校区まつり」開催 開催場所：東大阪アリーナ（企業共同開催） 来場者数 約17000名</p> <p>通年、6～7回の実行委員会、各委員会は随時開催（企画委員会・8回） スタッフ間の打ち合わせも随時</p>
------	---

目 標	<申請時> 来場者数 20,000名	<事業実施後> 来場者数 20,000名
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>今回で5回目の開催という事で、スタッフ間の連携や事業運営自体もスムーズに進行できるようになりました。これも小阪中学校区を中心とする学校園、PTA、地域団体、地元企業、大学など幅広い年齢層の方々が一つとなって、企画から運営まで様々な議論を重ねてきた結果であると実感しております。</p> <p>また、地域の子どもたちに喜んでもらえるよう、地域の大人たちが協力している姿を見せることで、将来的にこの地域を支えてくれる人材育成を担う事業としてもその成果は表れてきております。</p> <p>そして今回は更なる”地域愛”の向上を図るため、地域のシニア世代の方々にもっと輝いてもらえた方が、地域が活性化し子供たちの地域愛を育むことができるのではないかと考え、「ステージ出演」「将棋コーナー」「竹細工教室」を準備し、スタッフ等のお手伝いをして頂く事で、子供とシニアの交流を活発に行うことができ、地域愛の向上を図ることが出来ました。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>5回目の開催であり、地域にも認知され楽しみな大規模行事として皆さん楽しみにされております。しかしながら、規模が大きくなることで会場での運営や準備スタッフの人数、また運営資金（主に協賛金）の調達にも負担が出てきておりますので、今後、永続的に地域行事として開催していくために規模の縮小を含め一度検討の余地があります。</p> <p>今後は、更に”地域愛”の取組に力を入れていく必要があると考えます。今回のように地域のシニア世代の方々に多数参加して頂き、子供との交流をもつことで地域が活性化し、関わった子供たちが大人になり、今度はスタッフ等の支援側でまつりに参加するという好循環を作り出していくことが望ましいと考えております。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	1. 地域の居場所・集いの場づくりサミット in 東大阪 2. 東大阪の居場所・集いの場ガイドブック作成事業		
団体名	コミュニティカフェ・ひだまり		
助成区分	事業チャレンジ 部門	助成金額	490,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>1. 2017年3月14日に第1回「地域の居場所・集いの場づくりサミット in 東大阪」を開催。その後、東大阪市の総合事業（集い型サービス等）も含め、各地域でサロン、集いの場、居場所等が増えてきており、今回は、第2回目として、居場所等の立上げ支援や運営等に関わる課題を抽出し、居場所等が更に拡大し、運営が安定・充実することを目指して開催する。</p> <p>2. 市内に於ける様々なカタチ（開設者の想いも含め）の集いの場・居場所をフォーカスし、ガイドブックに掲載することで、市民や関係機関に周知して頂くと同時に各場への参加を促し、市内に居場所づくり等が更に拡大することを目指す。</p>
	内容	<p>1. 地域の居場所・集いの場づくりサミット in 東大阪 ※別添案内チラシ及び要項を資料参照</p> <p>2. 市内約40カ所の集いの場・サロン・居場所等への取材活動を行い、ガイドブック掲載協力依頼及びニーズや課題等の把握。ガイドブックを公共施設や関係機関・団体・市民等に配布する。</p>

活動実績	<p>2017年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月18日大阪商業大学で事業計画のプレゼンを行う。70名参加。 ・6月29日福祉部長、他、事業計画の説明と協力依頼を行う。 ・同日 宍戸教授と調査等の進め方及びロードマップ等を協議する。 ・10月 調査プロジェクトチームを発足。 <p>2018年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1月19日 ガイドブック作成に向けた方針と行動計画を策定する。 ・2月1日 ガイドブック作成に向けた情報提供依頼文書を発行。 ・2月5日～9日 関係機関等へ説明・協力依頼・調整などを行う。 ・2月13日 取材活動が本格的に開始する。 最終約40カ所+54校区福祉員会活動一覧を掲載 ・3月19日 原稿（校了）印刷へ ・3月23日 第2回集いの場・居場所づくりサミット in 東大阪開催 ・3月30日 集いの場・居場所等ガイドブック 2018 東大阪版 発刊
------	--

	<申請時>	<事業実施後>
目標	ガイドブック作成を通じて市内の集いの場・居場所の調査を行い、第2回サミット等を通じてネットワークづくり等を図る。	それぞれの集いの場・居場所・サロン等の活動内容や開設者の想いを知ることができた。またニーズや課題も見えてきた。今後連携していく必要性も感じた。
事業の成果・効果	1. ガイドブック作成作業は、①関係機関等への趣旨説明と協力依頼、②情報収集（取材対象のリスト作成）、③取材活動、④作成作業、⑤校了と、当初の想定よりかなりの業務量が発生し、時間の確保に苦勞した。しかし、約40カ所の取材を1ヶ月半掛けて行ったことにより、それぞれの「場」を訪れ、利用者とも話をし、開設の想いや課題等も直接聴くことが出来た。地域にはいろんな「場のカタチや想い」があり、それらが繋がって行くことやサポートされていく必要性を感じた。今後の施策立案の参考になった。 2. これらの取材活動を踏まえ、第2回集いの場・居場所づくりサミットを開催することにより、場の立上げ及び運営の支援等の必要性を認識。	
今後の事業展開	1. 集いの場・居場所・サロン等は年々必要性を感じて広まり増えていくものと思われる。特に今回は、社会福祉協議会や孔舎衙・石切地域におけるサロン協議会など既に機関でネットワークされていない、個別的なものにフォーカスを当て、ガイドブックに掲載をした。従って、次回は、既存機関等でネットワークされている「場」も含め、新しい情報を入れたものを作る必要がある。 2. 集いの場・居場所づくりは、地域社会におけるセーフティネットであり共生型地域社会づくりに向けた戦略的な施策になり得る（行政施策への反映）	



平成 29 年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	ポイ捨てボクメツプロジェクト		
団体名	ポイ捨てボクメツ作戦実行委員会		
助成区分	スタート支援部門	助成金額	200,000 円

事業 の 目的 ・ 内容	目的	東大阪市D地域のごみのポイ捨て（散乱ごみ）の清掃及び看板の設置による削減と啓発活動で、大人や子ども、企業や行政と協働し「自分のまちは自分の家と同じ」を合言葉に、自分たちが暮らすまちへの愛着を深めます。
	内容	ポイ捨てごみ（散乱ごみ）に対し、継続的、短期的な清掃活動を行う仕組みづくりを行います。子どもも大人も地域ぐるみで取り組める活動「花園桜通りをキレイに～みちのえほん」を前年に続き平成 29 年度も実施、他の地域への展開を検討するために「散乱ごみ見学ミニツアー」による実態調査も行います。

活動 実績	<p>2017/5/22 東大阪市役所近辺のポイ捨て状況調査</p> <p>2017/9/10 散乱ごみ見学ミニツアー実施</p> <p>2017/10/20 阪神高速高架下清掃（アドプトロード One for All 共催）</p> <p>2017/11/23 「花園フェスタ」出展（展示・ゲームなどによる啓発）</p> <p>2018/2/25 東大阪市立 男女共同参画センター イコーラムフェスタ出展（展示・ゲームなどによる啓発）</p> <p>2018/3/2～3/4 東大阪市民芸術文化祭に「みちのえほん」実績写真展示</p> <p>---</p> <p>2017年4月～2018年3月まで毎月1回委員会会議を開催</p> <p>2018年3月18日、花園さくら通りをキレイに「みちのえほん2」を実施予定</p>
----------	---

目 標	<p><申請時></p> <p>① 実施場所の散乱ごみの清掃及びポイ捨て防止看板の設置イベント「みちのえほん」の実施。実施回数：1回、参加40名</p> <p>② 「散乱ごみ見学ミニツアー」1回、参加6名</p>	<p><事業実施後></p> <p>① 3/18（日）実施予定</p> <p>② 「散乱ごみ見学ミニツアー」1回、参加8名</p>
事業の成果・効果	<p>①については3/18実施予定です。</p> <p>②については、東大阪の中央環状線・国道308号線、外環状線などと交差する幹線道路や交差点部分で特にポイ捨て（散乱ごみ）が多くみられ、放置されていることが分かった。</p>	
今後の事業展開	<p>①については、毎年継続することで、身近な道路や水路に愛着を持ってもらい、共有部分や境界部分であっても清掃活動を定着させていきたいと思えます。</p> <p>②については、今年度はこの調査を踏まえ、アドプトロードとの共催で八尾土木事務所の協力を得て清掃活動が実現したが、次年度も継続的にポイ捨ての状況を調査し、問題の実態と原因を調べていきたいと思えます。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

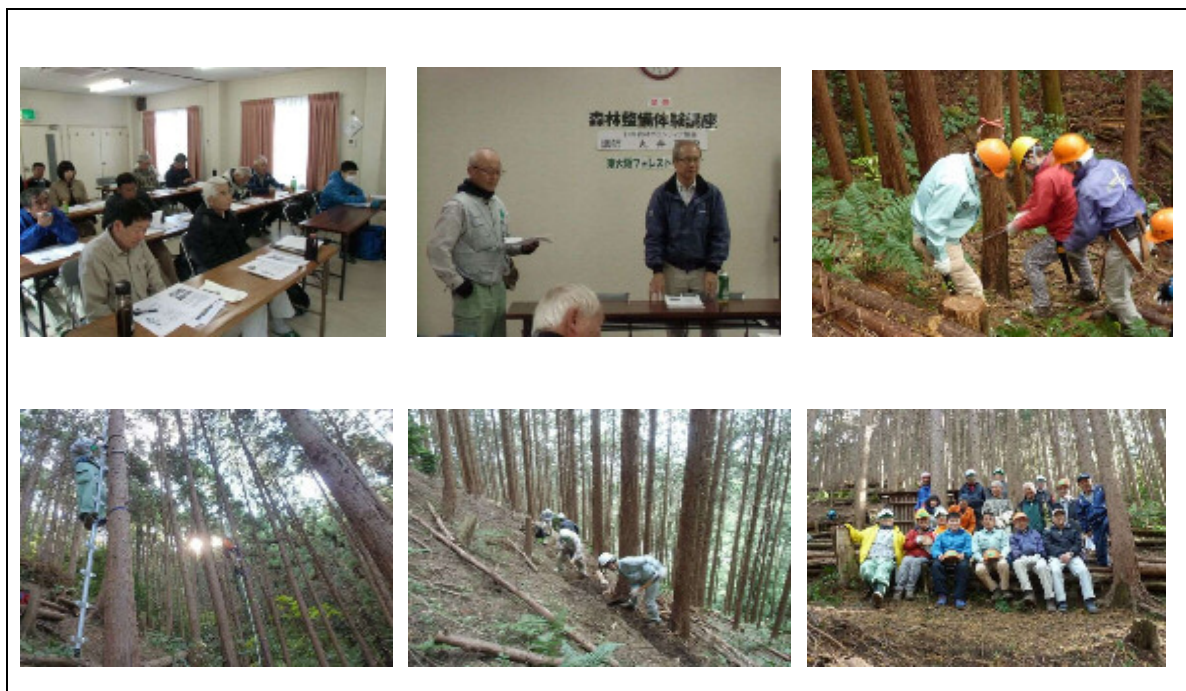
事業名	森林保全整備活動と森林整備体験講座		
団体名	東大阪フォレストクラブ		
助成区分	事業チャレンジ部門	助成金額	70,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>生駒山の自然環境をより良好な状態で、次の世代に引き継ぐため、市民及び企業ならびに行政と協働し、森林保全整備活動を行う。</p> <p>また、体験講座を実施し、広く市民に対して森林の持つ公益性等森林整備の大切さをPRする。</p>
	内容	<p>上石切町 2 丁目地区の放置人工森林(ヒノキなどの過密林)を適正な成立本数まで伐採し、整備・保全活動を行った。</p> <p>一般市民向けに、森林の持つ公益性に興味を持ってもらうため、NPO 日本森林ボランティア協会より講師を招き森林整備体験講座を実施した。</p>

活動実績	4月16日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………13名
	5月21日(日) 森林整備活動(午後定期総会)	……………19名
	6月18日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………18名
	7月16日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………15名
	《8月はお休みです》	
	9月17日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	台風接近の為中止
	10月15日(日) (グリーンフェスタ用、丸太切り出し)	小雨強行 ……………7名
	10月22日(日) 第3回東大阪市グリーンフェスタ	台風接近の為中止
	11月19日(日) 森林整備活動と森林整備体験講座	……………19名
	12月17日(日) 森林整備活動(除伐、枝打ち、道づくり)	……………15名
	平成30年	
	1月21日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり・市養成講座実習)	……………22名
2月18日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	……………10名	
3月18日(日) 森林整備活動(除伐と道づくり)	《見込み》……………12名	

目 標	<申請時> 年間 11 日の活動で、延べ参加人員 120 名を目指す。 また、新規入会者 3 名を図る。	<事業実施後> 本年は、延参加 150 名、新規会員 3 名の目標は達成ができたが、更に本会の PR に努め、若年層会員の入会を図る。
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>・森林整備体験講座の実施により、日本の森林・林業の特徴や現状を踏まえ、これからの目指す方向などについて理解ができた。</p> <p>市民は勿論のこと、会員のスキルアップもでき、森林は単に木材生産としての経済財ではなく、水源涵養や国土の保全など大きくは地球環境を守ってくれる、人類にとって大切な環境財であることを再認識させられた。</p> <p>・本年は、台風接近が 2 度あったにも拘らず、延べ参加者 150 名(見込み)、約 0.3ha の森林整備(除間伐)と作業道 120m の整備並びに一部の枝打ち作業を行った。</p> <p>林内が明るくなり林床にも日差しが届き、下草や灌木も育ってきている。 また、待望の新会員の内 2 名が若年層で、森林女子も誕生した。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>より広く一般市民に向け、森林ボランティア活動の必要性を PR し、理解と協力を得ることは勿論のこと、引続き会員（特に若年の）の獲得に勤めるとともに会員相互のスキルアップを進めるため、チェーンソー等の技術取得研修にも参加できるよう、資金確保もあわせて行いたい。</p> <p>また、将来的には、現在地以外でも活動できるよう、組織・体制の強化を図ると共に他団体の活動にも積極的に関わって行きたい</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	空き家を活用した地域や学生が高齢者を支える見守り事業		
団体名	NPO 法人国際ボランティア学生協会東大阪クラブ (以下 KINVUSA)		
助成区分	まちづくりファンド調査研究部門	助成金額	500,000 円

事業の目的・内容	目的	人口の3割近くが高齢者である東大阪市において今後高齢者をどのように支えていくということは大きな問題となっており、年々増加する高齢者を行政だけでなく市民や地域でも支援する仕組み作りが必要である。さらなる地域支援事業の拡大、学生や地域が支える高齢者の住まいや担い手の必要性があるのではないかと、活動を通じて感じたため。
	内容	現在、空き家となっている近畿大学周辺にある空き家を改修するにあたり、近畿大学の学生、地域住民、高齢者の方に対して高齢者問題や空き家問題、地域に参画することに対するニーズや可能性をアンケート調査やWSを通じて明確にし、調査から得られたデータを基に事業を形成していく。

活動実績	<ul style="list-style-type: none"> ●H29.9月 アンケート作成の打ち合わせ,作成開始 ●H29.11月 学生向けのアンケート作成終了。配布開始。 ●H29.12月 地域住民向けのアンケート作成開始 ●H30.1月 地域住民向けのアンケート作成終了。配布開始 ●H30.2月 4軒長屋内覧会時、地域住民向けのアンケート配布 ●H30.2月 長瀬の長屋,地域サロンスペースにて「手作り市」イベントを開催。 >その際,サロン利用者に対し地域向けアンケート配布。出店者の方を交えてWSを行う
------	---

目 標	<申請時> 高齢者問題や空き家問題,地域に参画することに対するニーズや可能性を明確にしていく。	<事業実施後> 地域に必要とされる改修計画の設計,学生と高齢者が共生する仕組みづくりの企画を行う。
事業の成果・効果	近畿大学の学生,東大阪市に在住する高齢者,養護老人ホームの利用者,ながせのながやの利用者に対してアンケート配布を行い,幅広い年齢層の回答データを得ることが出来た。本事業に関する意見を直接頂くことが出来た。回答データや意見の中には本事業の肝である,学生と高齢者のシェアハウスに関して,高齢者問題に対する1つの提案になるのではないかといいた声が学生,地域住民,高齢者の方々から得ることが出来たのが一番の大きな収穫であると思う。また,今後、地域住民や市民で高齢者を見守る仕組みや、活動は必要があると思う意見も多数寄せられたので,学生と高齢者のシェアハウスという取り組みに価値はあるのではないかといい事が結果を集計,分析することにより明らかになった。	
今後の事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者や学生などの多世代が共生できる住まいへと改修し,高齢者問題に対する提案,地域のストックを活用した新たな活用モデルとする。 ・ 事業全体を通して高齢者問題に対し,地域や学生にも問題意識を持ち地域で高齢者を支える事業へと参画してもらえらる団体や個人を発掘したいと考えている。 ・ 事業対象を全て改修後は住人だけに還元するのではなく地域の高齢者も支援,見守りを拠点としての役割を果たすことができると考えている。 	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



4軒長屋内覧会活動時の様子



手作り市の活動時の様子

平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

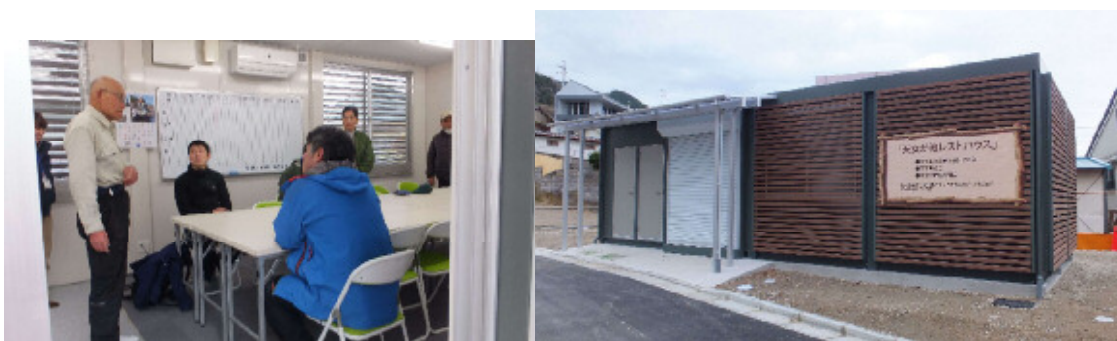
事業名	「日下山」利活用促進整備事業		
団体名	日下山を市民の森にする会		
助成区分	まちづくりファンド部門	助成金額	5,000,000 円

事業の目的・内容	目的	日下山市民の会を中心に、15年にわたる除伐・植栽により、「パンドラの丘」や遊歩道の整備が進み、日下山一帯が里山としての景観を楽しめることとなってきたところであり、より一層の自然との共生、地域の人々との交流の場として利活用されるための環境整備として拠点施設を設置する。
	内容	平成28年実施したアンケート調査と意見交換会からの「地域の交流サロン会場」や、「広く市民の“日下の里歩き”、“生駒の山登り”の立ち寄り処」など、地域資源を活かした「まちづくり」のプラットフォームとして運用する。

活動実績	<p>平成28年度「まちづくりファンド調査研究部門」での、ニーズ調査のアンケート(300枚配布・274枚回収)と意見交換会(2回延40人参加)の集約にもとづく、三者会議(構成:本会、日下自治会、日下財産区管理会)を重ね、本事業を取り組んだ。</p> <p>① 施設構成の確認(25名程度の休憩スペースとトイレの設置)</p> <p>② 発注業者の決定 (新築鉄骨造平屋一棟:建築面積39.06㎡)</p> <p>③ 事業費の分担(外構など追加工事も含む寄付金分担金)</p> <p>④ 工事の進捗管理 (平成29年11月25日に基礎工事~12月28日竣工)</p> <p>⑤ 施設名を「天女が池レストハウス」とする</p> <p>⑥ 「天女が池レストハウス管理会」の設置 (構成:本会、日下自治会、日下財産区管理会)</p> <p>平成30年2月末現在、外構工事と建物登記の手続き中で、4月以降の具体の活用・運営を目指しています。</p>
------	---

事業の成果・効果	<p>① 日下新池(日下遊園地時代の愛称：天女が池)畔に映えるレストハウスの佇まい、レストハウス前の道路の拡幅整備、そして、当会による池法面の高木の除伐も相俟って、日下山、日下新池を一带とする里山の良好な景観形成に寄与し、会員の活動意欲の高揚も図れた。</p> <p>② 前年度の地域へのアンケート調査の実施や、当該整備事業への「日下自治会」「日下財産区管理会」の支援をいただき、日下地域総ぐるみの事業となり、三者会議(構成：本会、日下自治会、日下財産区管理会)による本事業の進捗管理から、三者構成の「天女が池レストハウス管理会」の設置へと新たな地域のつながりが生まれることになった。</p>
今後の事業展開	<p>① 月2回の定例作業も、その多くが、除草・除伐であるが、レストハウスを拠点に新たな活動分野での当会の組織活動・実践活動の拡大が大いに期待される</p> <p>② 生駒山麓の山歩き、日下地域の里歩きに、トイレ(快適・安心空間)・レスト(休息・安全空間)を提供し、近隣の人、遠来の人にも里山文化のフィールドを楽しんでいただけるレストハウスとして利用される様に運営管理する</p> <p>③ 児童・生徒の里山学習の受け入れ、森林管理の講習(ボランティア養成、チェーンソー・刈払機の実技)や地域の交流の拠点としての活用の展開を取り組む。</p>

*活動内容がわかる写真を添付してください。



平成29年度 地域まちづくり活動助成金 活動成果概要

事業名	宮本順三記念館・豆玩舎 ZUNZO 未来の夢と文化の駅事業		
団体名	特定非営利活動法人おまけ文化の会		
助成区分	まちづくりファンド部門	助成金額	5,000,000 円

事業の目的・内容	目的	<p>八戸ノ里駅前の好立地を利用し、街の観光案内(歴史・文化等)やモノ作りの伝統を伝える文化の駅事業と多世代が見る・学ぶ・遊ぶ・作る事が出来る体験型博物館を目指す。</p> <p>1) 建物がわかりづらく迷う人も多いため看板と入口の整備。</p> <p>2) 市民が博物館資料に学び(伝統文化を継承)・体験(工作・大阪伝統等)する場。モノづくり体験を常時可能にした東大阪らしい体験型の博物館としての基盤作りや拠点整備を行う。</p> <p>3) 室内遊び場の空間整備。</p> <p>4) “文化の駅”として、東大阪観光協会・地域の文化団体と協力して、街案内コーナー・歴史と文化再発見とモノづくり伝統企業紹介と物産コーナーを開設する。</p>
	内容	<p>宮本順三記念館・豆玩舎 ZUNZO を街の文化拠点(観光等のまち案内・モノづくり伝統品の紹介等)・体験型博物館としてゆくため環境整備のためのリニューアル工事を行う。</p> <p>また、地域の文化団体との共催事業も計画する。</p>

活動実績	2017年7月～2018年2月
	環境整備のためのリノベーション委員会を設置。
	月2～3回、建築アドバイザー・施工業者との会議を持つ。
	デザインから空間整備まで細かな打ち合わせと確認。
	11月～1月 文化の駅オープニングにむけての文化団体の交流活動
	9～11月 改修工事に向けての片付け
	12月2日～12月15日工事
	12月18～1月10日 文化の駅オープニング準備・片付け
	1月14日 「文化の駅」オープン
	2月 各部屋の片付け続き・利用案内等作成
3月 報告書等制作	

目 標	<p><申請時> 11月オープンを目標。 1500→3000人（これは改修工事後のため次年度以降計画）</p>	<p><事業実施後> リノベーション委員会での再調査などのため工事時期がずれ、1月オープンになったが、市民団体の交流を持ちながら進めた。</p>
事 業 の 成 果 ・ 効 果	<p>① 建物屋上に看板の設置とエントランスの改修工事により、入口がわかりやすくなった。地元の方が来てくださるようになってきた。</p> <p>② 文化の駅・まち案内スペースにより、市民も他府県からの利用者にも地域の歴史や伝統あるモノづくり企業の製品を紹介し、街を知る・モノづくり体験を希望する人が増えてきた。</p> <p>③ カルチャールームへの入口が正面に広くなり、また靴を脱がずに入れるようになったことから、多人数がスムーズに出入り可能となった。</p> <p>④ 遊具スペースは親子連れに人気の空間となった。 オープニングイベントには、参加者も市民約100名が入れ替わりに訪れて「文化の駅」を盛り上げることが出来た。 「ひがし大阪もの知りカルタ」を制作した社団法人はぐくみネット様によるカルタ大会と子ども達が描いた東大阪の絵画展示を改修工事をしたカルチャールームで行った。また枚岡樟風高校・地域貢献部、近大・商大の学生たちがボランティアで手伝ってくれた。</p> <p>⑤ カルチャールームでの文化活動の共催をしたいという団体もあり、今後計画する。</p>	
今 後 の 事 業 展 開	<p>① 学ぶこと・遊ぶこと・体験することを多世代が楽しめる社会教育の場・文化施設を目指し、地域の文化的発展に役立てゆく。</p> <p>② “駅”という名の通り、街の文化拠点の数々を結ぶステーションとしての役割を担う。文化の駅の展示や販売、体験と魅力的なイベントや講座も計画する。地域の文化団体と連携を深めるため、“文化の駅”の活用を市民グループや観光ボランティア・文化団体などに促す。</p> <p>③ 民間の博物館が街の文化拠点や観光案内・社会教育・体験の場となる文化モデル事業としたい。</p>	

*活動内容がわかる写真を添付してください。



文化の駅・まち案内&SHOP



絵本と遊具室



カルチャールーム（展示と講座）
「子どもの描いた東大阪絵画展
ひがし大阪もの知りカルタ大会」